

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	16-043	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Smoking, alcohol and caffeine in relation to two hormonal indicators of ovarian age during the reproductive years. 喫煙・アルコール・カフェインと生殖期の卵巣機能に係る 2 つのホルモンの関係		
<b>執筆者</b>		
Kline J, Tang A, Levin B.		
<b>掲載誌</b>		
Maturitas. 2016 Oct;92:115-22. doi: 10.1016/j.maturitas.2016.07.010.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、喫煙、カフェイン、卵巣機能		27621248
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 喫煙、飲酒、カフェインの摂取が卵巣機能の指標である抗ミュラー管ホルモン (anti-Müllerian hormone, AMH) と卵胞刺激ホルモン (follicle stimulating hormone, FSH) と関連しているか検証する。</p> <p><b>方法：</b> 自然流産 (トリソミー105、非トリソミー93) と生産(279)の 477 名の母体から出産後の正常な月経の 2-4 日後のホルモン濃度を測定する横断研究を行った。</p> <p><b>結果：</b> 喫煙群は非喫煙群に比べて FSH の中央値が 15%高かった(<math>\beta</math> for <math>\ln(\text{FSH})=0.14</math>, 95%CI 0.03-0.25)。しかし、AMH については有意差が認められなかった。2-7 日週の飲酒群とカフェイン 122-553mg 摂取群 (最高摂取群) は FSH、AMH 共に関連が認められなかった。</p> <p><b>結論：</b> 喫煙が FSH と関連したが AMH とは関連しなかったことは、喫煙が胞状卵胞の形成と視床下部・下垂体・卵巣軸の機能を損なう可能性が示唆された。喫煙が仮説に反して AMH に関連せず、卵胞閉鎖に至る今後の研究が待たれる。</p>		